

令和5年度

産業建設水道常任委員会 行政視察報告

◎視察実施日

令和5年10月23日(月)～令和5年10月25日(水)

◎参加者

委員長:黒木 英和

副委員長:黒木 克彦

委員:黒木 高広、三樹 喜久代、畝原 幸裕

視察の概要

◎視察先及び調査事項

【沖縄県国頭郡 宜野座村】

- ・プロ野球キャンプの受け入れに関する取り組みや、受け入れに伴う地域観光の活性化について

【沖縄県国頭郡 大宜味村】

- ・シークワサーの主力特産品化への取り組みや、大宜味村シークワサー振興戦略におけるマーケティングについて

【沖縄県 糸満市】

- ・農作業支援通知 IoT『てるちゃん』の事業取り組み、農業効率化の成果、事業開始前後の諸課題について

■プロ野球キャンプの受け入れに関する取り組みや、受け入れに伴う地域観光の活性化について



沖縄県国頭郡宜野座村の概要

【人口】 6,339人 (令和6年1月末)

【世帯数】 2,762世帯 (令和6年1月末)

【面積】 31.30km²

宜野座村は沖縄本島のほぼ中央部の東海岸に位置し、“水と緑と太陽の里”を謳う村である。

多くの川が流れる宜野座村には、ダム100選にも選ばれた漢那ダムをはじめとした5つのダムがあり、村民の生活を支えている。



■プロ野球キャンプの受け入れに関する取り組みや、受け入れに伴う地域観光の活性化について

視察の概要：沖縄県国頭郡宜野座村①

◇宜野座村の野球場は、両翼98m、中堅122mの野球専用施設で、外野には体の負担を軽減する天然芝が整備され、4基の照明塔によりナイター設備も完備されています。2014年には電光掲示板が電光式にリニューアルされ、内野は甲子園球場と同じ土で整備されており、阪神タイガースの1軍春季キャンプ地として使用されています。

また、宜野座ドームにはトレーニング室があり、多目的練習場や野球ブルペンも完備されています。



宜野座村野球場



宜野座ドームの内観

■プロ野球キャンプの受け入れに関する取り組みや、受け入れに伴う地域観光の活性化について

視察の概要：沖縄県国頭郡宜野座村②

◇2022年のプロ野球春季キャンプは、沖縄県全体で経済効果が約43億4,700万円に上りました。宜野座村においても、野球場を含む施設には令和4年度に観客数約60,000人を迎え、観光や商工に大きな影響を与えています。野球場とその周辺施設の建設の財源には、大部分に防衛省からの交付金が充てられています。

令和5年度宜野座村阪神タイガース春季キャンプ 受入事業 年間予算額

(内訳)

- ・会計年度任用職員報酬
- ・消耗品費
- ・会場設営委託料

22,724,000円
(財源の約8割が国からの一括交付金)

令和4年度宜野座村阪神タイガース春季キャンプ 受入事業 経済効果(直接的な売上のみ)

村観光協会集計

9,475,370円

事業所売り上げと観光協会売り上げを合わせた総額

村商工会集計

10,380,590円

球場内6店舗の売上合計

※間接的な経済効果の試算値は含んでおりません

■プロ野球キャンプの受け入れに関する取り組みや、受け入れに伴う地域観光の活性化について

沖縄県国頭郡宜野座村の視察を終えた各委員の所感①

○阪神タイガースのキャンプ地としても利用される宜野座村総合運動公園の施設の規模の大きさに驚きました。野球場やドーム型の室内、練習場、体育館など、様々なスポーツ施設が集合しており、このような施設が本市にもあれば、多くの利用者が集まると感じました。



講義受講中の様子



多目的スポーツ施設の内観

○阪神タイガース宜野座村協力会を中心に、阪神タイガースのキャンプ支援が行われており、村全体でキャンプを産業として位置づけています。1軍キャンプの誘致に向けた取り組みの重要性や、官民協力の必要性を感じました。

■プロ野球キャンプの受け入れに関する取り組みや、受け入れに伴う地域観光の活性化について

沖縄県国頭郡宜野座村の視察を終えた各委員の所感②

○宜野座村の球場は本市のものと比較して規模が大きく、両翼98m、天然芝・黒土（毎年キャンプ前に甲子園球場と同じ土を補充）を使用しています。球団のスポーツ器具が村民にも開放されており、近隣には多数のスポーツ施設が併設されています。

しかし、プレイヤーが利用するホテルや飲食店が不足している点が課題であると聞きました。沖縄県の基地による特別交付金が、自治体の政策に大きな力を与えていることも学びました。



■シークワサーの主力特産品化への取り組みや、大宜味村シークワサー振興戦略におけるマーケティングについて

沖縄県国頭郡大宜味村の概要

【人 口】 2,983人 (令和6年1月末)

【世帯数】 1,714世帯 (令和6年1月末)

【面 積】 63.55km²

沖縄本島の北部に位置しており、「長寿の里」「芭蕉布の里」「シークワサーの里」「ぶながやの里」として知られ、中でも日本一の長寿村として、豊かな自然の恵みを生かした伝統ある食文化などが、多くの注目を集めている。



■シークワサーの主力特産品化への取り組みや、大宜味村シークワサー振興戦略におけるマーケティングについて

視察の概要：沖縄県国頭郡大宜味村①

◇大宜味村でのシークワサーの栽培と加工は、昭和40年代から経済的栽培が始まり、平成12年には全国的なブームが到来しました。平成17年には特産品加工施設が完成し、「大宜味村シークワサーの里」として宣言されました。

◇シークワサーは、青切り果実、加工用果実、フルーツ用としての3回の収穫が可能で、加工用果実が主体ですが、高単価の青切り用やフルーツ用生食果実の生産にも力を入れています。



大宜味村特産品加工施設（完成当初）

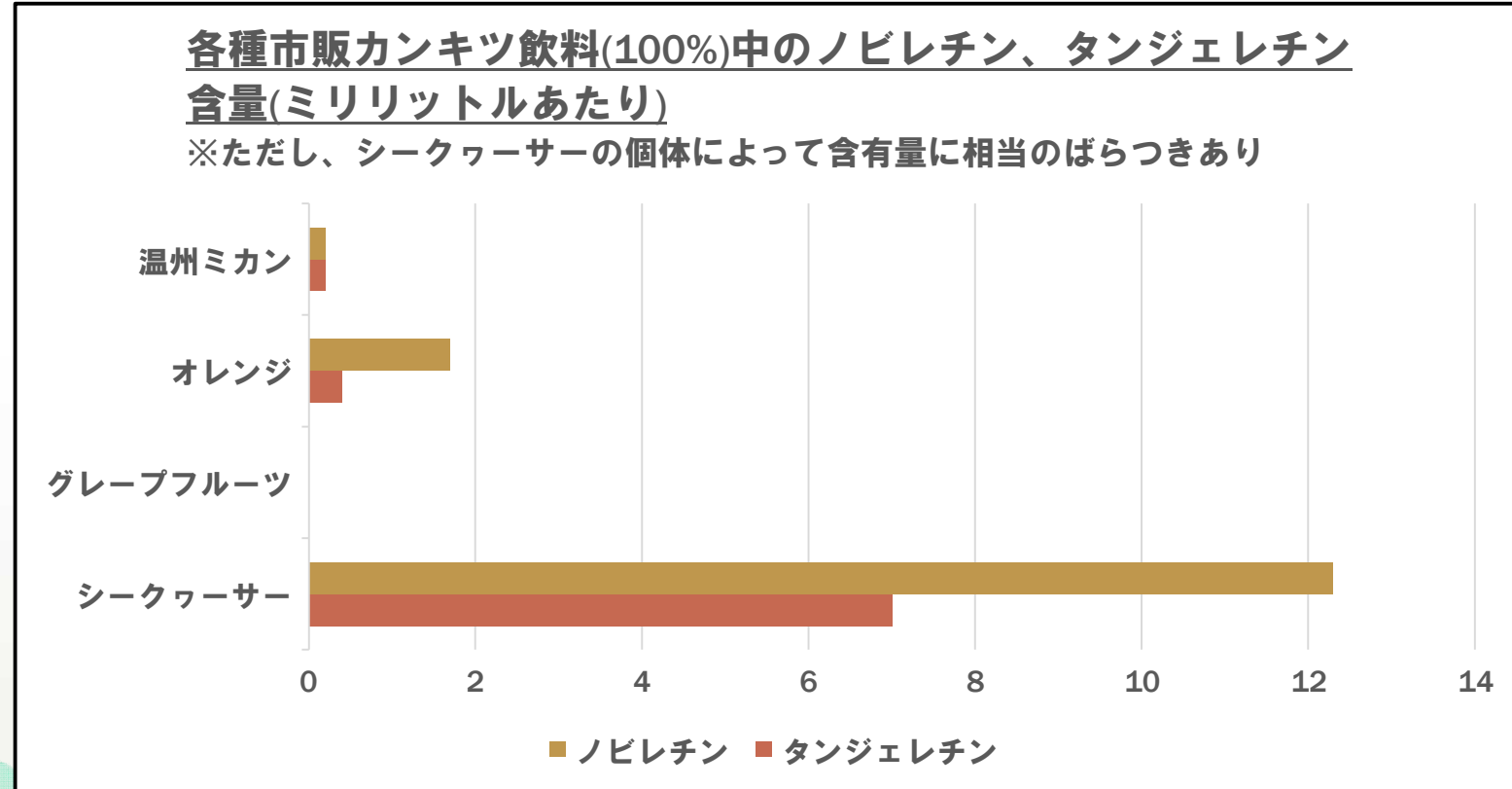


■シークワサーの主力特産品化への取り組みや、大宜味村シークワサー振興戦略におけるマーケティングについて

視察の概要：沖縄県国頭郡大宜味村②

◇ブームのきっかけは、テレビ番組での紹介や、血糖値上昇抑制効果・発がん抑制効果があるとされる「ノビレチン」、「タンジェレチン」などの機能性成分の研究発表によるもので、大宜味村ではシークワサーを通年型産業として振興し、村の経済と農家経営の安定に大きく貢献しています。

主な出荷先は関東や関西の消費地や本土の飲料メーカーで、香港への輸出も行っています。



参照：大宜味村ホームページ、「シークワサー」

<https://www.vill.ogimi.okinawa.jp/soshiki/kanri/gyomu/gaiyo/profile/348.html>. (参照日：2024.03.18)

■シークワサーの主力特産品化への取り組みや、大宜味村シークワサー振興戦略におけるマーケティングについて

沖縄県国頭郡大宜味村の視察を終えた各委員の所感①

○大宜味村では、シークワサーを青切り、加工品、そして生食用として出荷できるようにしており、村長を先頭に行政と生産者が一体となってブランド品としてのPR活動を行っています。この取り組みから、本市もへべすのPRを積極的に行うべきだと感じました。

○本市ではへべすの生産・加工に取り組んでいますが、生産性向上と特産品としての位置づけ向上のためには、「里づくり条例」の制定が重要であると感じました。また、大学や医療機関との連携による医学的効果の調査や、テレビ番組でのPRが必要だと考えます。



講義受講中の様子

沖縄県国頭郡大宜味村の視察を終えた各委員の所感②

○シークワサーの栽培や販売戦略について学びました。特に、風対策や台風克服などの努力、二つの販売方法、そしてSNSを活用したPRやテレビ番組への露出による知名度アップが印象的でした。農家や村役場関係者の努力により、シークワサーが特産品としての地位を確立していることがわかり、大変参考になりました。



■農作業支援通知 IoT『てるちゃん』の事業取り組み、農業効率化の成果、事業開始前後の諸課題について

沖縄県糸満市の概要

【人口】 62,582人 (令和6年1月末)

【世帯数】 28,567世帯 (令和6年1月末)

【面積】 46.60km²

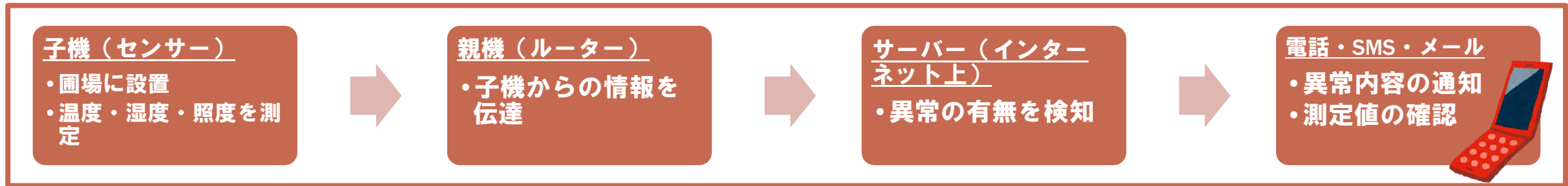
那覇市に近く、近年は人口が増加し、都市化が著しい。戦後出漁海域が沖縄周辺に限られたが、1982年には大型船用の糸満漁港が完成、水産加工工場を立地するなど商工業の中心として発達している。



■農作業支援通知IoT『てるちゃん』の事業取り組み、農業効率化の成果、事業開始前後の諸課題について

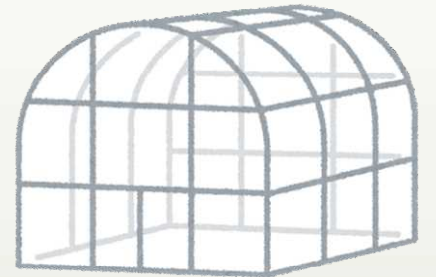
視察の概要：沖縄県糸満市①

農作業支援通知IoT『てるちゃん』の仕組み



◇農作業支援通知システム『てるちゃん』は、圃場（農作物を栽培する土地）の温度・湿度・照度の異常を検知して生産者の携帯電話等に通知し、作業負担の軽減と効率化を目的としています。

活用例としては、マンゴー、イチゴ、電照菊などのハウス栽培が主なものになります。



■農作業支援通知 IoT『てるちゃん』の事業取り組み、農業効率化の成果、事業開始前後の諸課題について

視察の概要：沖縄県糸満市②

◇糸満市では、平成29年4月にスマート農業を推進するプロジェクト「Cloud ON OKINAWA」を発足し、IT関連企業との連携協定を締結しました。

この取り組みには、オンラインカード決済の提供や一次産業のIoT化、若年層へのプログラミング教育が含まれます。特に、農作業の効率化を目指す農作業支援通知システム「てるちゃん」が平成30年に実証実験を開始し、農家からは作業軽減や安心して眠れるようになったとの声が上がっています。

◇ただし、課題として、システム自体はとても良いものの、事業の周知に苦慮している現状があり、生産者の間では「必要性を感じない」、「スマート機器に抵抗感がある」という意見もありました。



■農作業支援通知 IoT『てるちゃん』の事業取り組み、農業効率化の成果、事業開始前後の諸課題について

沖縄県糸満市の視察を終えた各委員の所感①

○農作業支援通知システムの普及が進まない主な理由は、農家におけるIoT技術への抵抗感にあると感じました。農家の多くが高齢者であり、デジタル技術に対する苦手意識がある一方で、未知の技術への拒否反応もあると考えられます。この技術が難しくないことを理解し、試してみる機会を提供することが重要だと思いました。

○畑の状況を携帯電話で知らせるシステムの導入や、若年層へのプログラミング教育の推進など、今後の課題も含めて多くの参考になる情報を得られました。特に、利用者の増加に向けた取り組みや補助金の活用など、糸満市の前向きな姿勢が印象的でした。



講義受講中の様子

沖縄県糸満市の視察を終えた各委員の所感②

○スマート農業の進展について、一部の農家は導入しているものの、全体としては変化が見られない状況です。「Cloud ON OKINAWA」プロジェクトを通じたIT関連人材の育成やIT企業との連携、近隣自治体との協力が進められていますが、今後の展開が期待されます。



ありがとうございました

産業建設水道常任委員会

委員長：黒木 英和
副委員長：黒木 克彦
委員：黒木 高広
三樹 喜久代
畝原 幸裕
壺岐 紘明

